

2014 年度 3 年次対象 学修活動に関するアンケートの結果（報告）

IR センター教育情報分析室・FD 委員会

I. アンケートの概要

2015 年 1 月から 2 月に 3 年生を対象にユニパのアンケート機能を用いて実施した。アンケートは、回答者の属性、施設・設備等の利用状況、学士力達成度・専門性の向上・教育目標の達成・意欲の伸び（以下、学士力等の伸展）、諸活動に書ける時間に関する項目より構成されている。233 名の回答が得られた（回答率 17.8%）。

II. 全体の傾向

1. 回答者の属性

回答者の学科構成を表 1-1、属性を表 1-2 に示す。

表 1-1 学科

学科名	度数	%
社会福祉学科	64	26.4
社会教育学科	34	14.0
福祉心理学科	41	16.9
産業福祉マネジメント学科	20	8.3
情報福祉マネジメント学科	23	9.5
子ども教育学科	40	16.5
保健看護学科	1	0.4
リハビリテーション学科	14	5.8
医療経営管理学科	5	2.1
総計	242	100.0

表 1-2 属性

項目	カテゴリ	度数	%
性別	男性	59	24.4
	女性	183	75.6
入試形態	AO入試	24	9.9
	推薦入試	65	26.9
	一般入試	153	63.2
居住形態	自宅	118	48.8
	自宅以外	124	51.2
部・サークルの所属	無	58	24.0
	有	184	76.0
ボランティア活動	無	61	25.2
	有	181	74.8
国際交流経験	無	219	90.5
	有	23	9.5
アルバイト経験	無	38	15.7
	有	204	84.3
実学臨床教育 (総合福祉学部のみ)	無	126	90.6
	有	13	9.4
副専攻の履修 (総合福祉学部、総合マ ネジメント学部のみ)	無	20	100.0
	有	0	.0

2. 施設・設備等の利用状況

施設・設備等の利用状況を表 2-1 に示す。

表2-1 施設等の利用状況

		なし	たまに	ときどき	頻繁に	無回答
図書館	度数	10	43	104	84	1
	%	4.1	17.8	43.0	34.7	0.4
美術工芸館	度数	204	24	8	2	4
	%	84.3	9.9	3.3	0.8	1.7
キャリアセンター	度数	49	103	65	19	6
	%	20.2	42.6	26.9	7.9	2.5
保健室・ウェルネス支援室・学生相談室	度数	157	66	9	2	8
	%	64.9	27.3	3.7	0.8	3.3
学習室、食堂(学習目的限定)	度数	15	55	72	95	5
	%	6.2	22.7	29.8	39.3	2.1
語学・異文化学習支援室	度数	216	13	5	2	6
	%	89.3	5.4	2.1	0.8	2.5
コミュニケーションタイム	度数	207	20	7	5	3
	%	85.5	8.3	2.9	2.1	1.2
UNIPA クラスプロフィール機能	度数	65	80	52	41	4
	%	26.9	33.1	21.5	16.9	1.7
UNIPA リエゾンポートフォリオ	度数	179	43	12	2	6
	%	74.0	17.8	5.0	0.8	2.5
Webテキスト「リエゾンゼミ・ナビ」	度数	210	25	1	1	5
	%	86.8	10.3	0.4	0.4	2.1
tfuマイカルテシシステム・tfu元気点検道場・tfu元気点検票かるた	度数	227	14			1
	%	93.8	5.8			0.4

次いで、授業履修時のシラバス・履修モデル・履修系統図の活用について、表 2-2 と表 2-3 に示す。

表2-2 履修モデル・履修系統図の認知について

		知らない	知っている
自分の学科・コースの履修モデル	度数	43	199
	%	17.8	82.2
自分の学科・コースの履修系統図	度数	69	173
	%	28.5	71.5

表2-3 履修時に参考にする情報について

		参考にしなかった	あまり参考にしなかった	まあまあ参考にした	かなり参考にした	無回答
シラバス	度数	6	38	120	76	2
	%	2.5	15.7	49.6	31.4	0.8
履修モデル	度数	36	68	105	28	5
	%	14.9	28.1	43.4	11.6	2.1
履修系統図	度数	61	60	96	22	3
	%	25.2	24.8	39.7	9.1	1.2

続いて、所属する学科の教育目標とディプロマ・ポリシーの認知状況について表 2-4 に示す。

表2-4 学科の教育目標、ディプロマ・ポリシーの認知

		知らない	あまり知らない	まあまあ知っている	かなり知っている	無回答
学科の教育研究上の目的・教育目標	度数	41	102	86	11	2
	%	16.9	42.1	35.5	4.5	0.8
学科のディプロマ・ポリシー	度数	69	96	70	5	2
	%	28.5	39.7	28.9	2.1	0.8

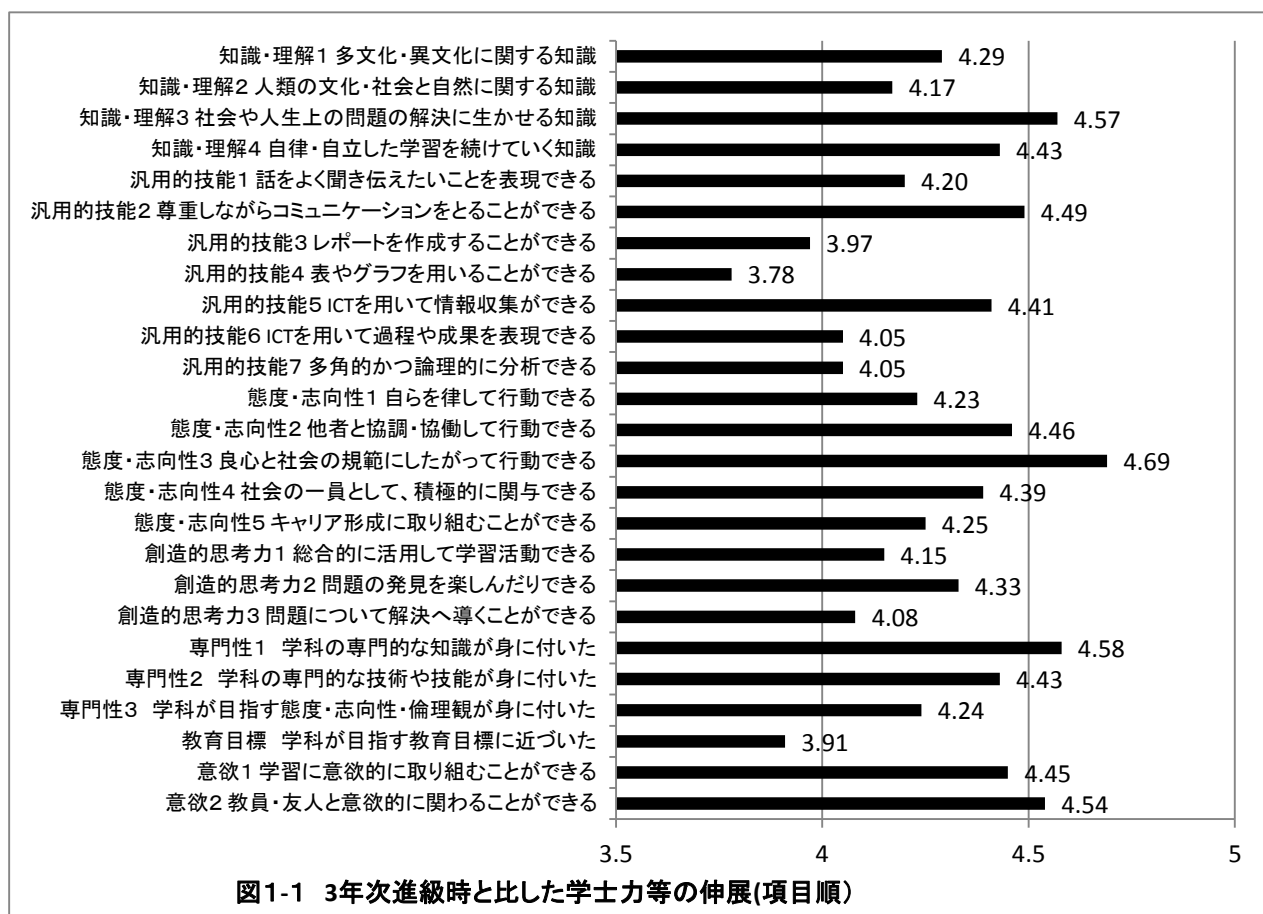
最後に、専門演習 I に対する評価を表 2-5 に示す。

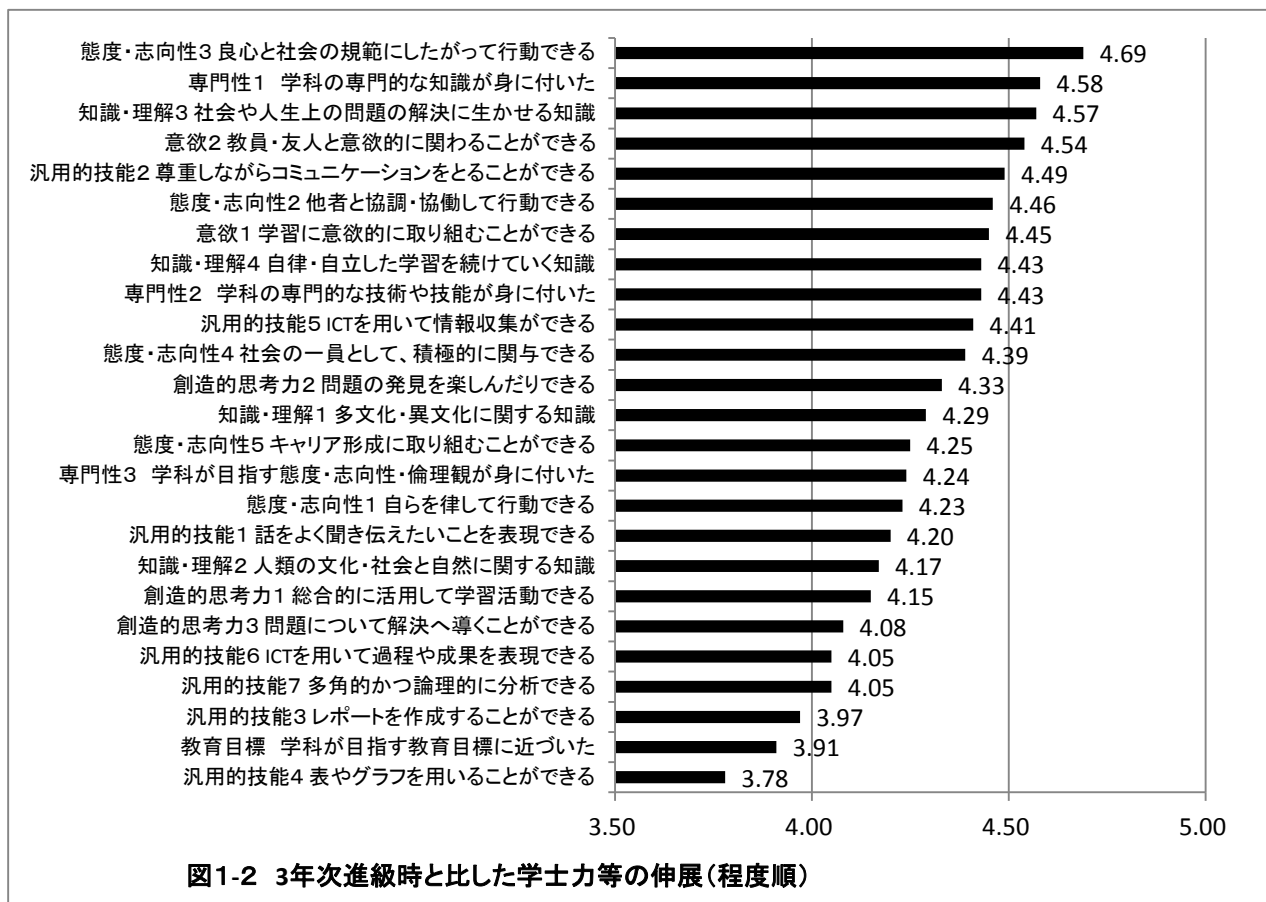
表2-5 専門演習 I に対する評価

		充実して いなかった	あまり充 実してい なかった	まあまあ 充実して いた	かなり充 実してい た	無回答
専門演習 I	度数	4	19	124	93	2
	%	1.7	7.9	51.2	38.4	0.8

3. 学士力等の伸展

3年次進級時と比した学士力等の伸展について、項目順にまとめたものを図 1-1、程度順にまとめたものを図 1-2 に示す。全ての項目が平均値 3.5 以上（伸展したことを意味する、「非常にそう思う」を 6、「まったくそう思わない」を 1 とする 6 件法）であった。特に伸びの大きい項目として示されたのは、「良心、社会期間」「学科の専門知識」「他者とのコミュニケーション」に関する項目であった。他方、「分析、図表を用いたレポート・資料作成」に関する項目は伸展の程度が小さいことが示された。





4. 諸活動時間

1 週間当たりの諸活動にあてる時間について表3にまとめた。各項目において割合上位の2つの時間帯を太字にしている。

表3 1週間あたりの諸活動時間

		0時間	1時間未満	1～2時間	3～5時間	6～10時間	11～15時間	16～20時間	20時間以上	無回答
履修している授業の予習や復習をする	度数	9	79	81	36	23	5	2	2	5
	%	3.7	32.6	33.5	14.9	9.5	2.1	0.8	0.8	2.1
授業に出席する	度数	0	3	2	5	17	59	63	85	8
	%	0.0	1.2	0.8	2.1	7.0	24.4	26.0	35.1	3.3
オフィスパワーを利用するなどして、授業時間以外に教員と面談する	度数	109	96	16	5	2	2	2	3	7
	%	45.0	39.7	6.6	2.1	0.8	0.8	0.8	1.2	2.9
読書をする(予復習のための教科書・専門書を除く)	度数	48	86	53	24	8	6	3	8	6
	%	19.8	35.5	21.9	9.9	3.3	2.5	1.2	3.3	2.5
新聞を読む	度数	96	93	29	15	0	0	0	2	7
	%	39.7	38.4	12.0	6.2	0.0	0.0	0.0	0.8	2.9
インターネットでニュースを調べる	度数	18	79	73	49	10	1	1	5	6
	%	7.4	32.6	30.2	20.2	4.1	0.4	0.4	2.1	2.5
ボランティア活動をする	度数	77	33	41	46	16	3	4	11	11
	%	31.8	13.6	16.9	19.0	6.6	1.2	1.7	4.5	4.5
アルバイトをする	度数	43	7	7	29	48	38	26	39	5
	%	17.8	2.9	2.9	12.0	19.8	15.7	10.7	16.1	2.1

5. 属性と学士力等の伸展の関連

学士力等の伸展と統計的に有意に関連がみられた属性は表4の通りであった。

表4 属性と学士力等の伸展の関係

	性別	態入試形	態居住形	ルサ部活・動ク	活テポ動イラン	流国交	イアトルバ	IIシタインブン	床実教育学臨
知識・理解	多文化・異文化に関する知識					無<有		無<有	
	人類の文化・社会と自然に関する知識	男>女	推薦>一般			無<有		無<有	
	社会や人生上の問題の解決に生かせる知識				無<有	無<有	無<有		
	自律・自立した学習を続けていく知識					無<有			
汎用的技能	話をよく聞き伝えたいことを表現できる			無<有					
	尊重しながらコミュニケーションをとることができる			無<有	無<有				
	レポートを作成することができる	男>女					無<有		
	表やグラフを用いることができる								
	ICTを用いて情報収集ができる					無<有			
態度・志向性	ICTを用いて過程や成果を表現できる	男>女							
	多角的かつ論理的に分析できる								
	自らを律して行動できる								
	他者と協調・協働して行動できる				無<有	無<有	無<有		
創造的思考力	良心と社会の規範にしたがって行動できる		推薦>一般	自宅<自宅以外	無<有	無<有	無<有		
	社会の一員として、積極的に関与できる		推薦>一般		無<有	無<有	無<有		
	キャリア形成に取り組むことができる				無<有	無<有	無<有		
	総合的に活用して学習活動できる					無<有	無<有		
専門性	問題の発見を楽しんだりできる								
	問題について解決へ導くことができる								
	所属する学科の専門的な知識					無<有			
教育目標	所属する学科の専門的な技術や技能								無<有
	所属する学科が目指す態度・志向性や倫理観					無<有			
意欲	所属する学科が目指す教育研究上の目的や教育目標					無<有			
	学習に意欲的に取り組むことができる					無<有			
	教員・友人と意欲的に関わることができる					無<有			

6. 施設・設備の利用と学士力等の伸展の関連

学士力等の伸展と統計的に有意に関連がみられた施設・設備の利用は、表5-1の通りであった(表中数値は順位相関係数)。特に係数が.20を超えている項目を太字とした。これらの部分はすべて弱いながらも正の関連を示しており(利用する者のほうが利用しない者よりも伸びを高く示すことを意味する)、特に「図書館の利用」、次いで「UNIVERSALPASSPORTのリエゾンポートフォリオの活用」が学士力等の伸展との正の関わりを持っていることが示された。

表5-1 学士力等の伸展と施設利用の関係

	図書館	美術工芸館	キャリアセンター	保健室・ウェルネス・学生相談室	学習室	語学・異文化学習支援室	コミュニケーションタイム	クラスプロファイル機能	リエゾンポートフォリオ	リエゾンゼミナビ	uMマイカルテシステム
知識・理解	多文化・異文化に関する知識	.28**				.14*			.15*	.15*	.15*
	人類の文化・社会と自然に関する知識	.24**	.18**	.16*		.17**		.13*	.16*	.28**	.25**
	社会や人生上の問題の解決に生かせる知識	.25**	.17**				.16*		.15*	.18**	
	自律・自立した学習を続けていく知識	.27**						.14*	.20**	.16*	.16*
汎用的技能	話をよく聞き伝えたいことを表現できる	.15*		.13*							.15*
	尊重しながらコミュニケーションをとることができる	.13*						.18**	.15*		.15*
	レポートを作成することができる	.15*		.14*						.16*	.22**
	表やグラフを用いることができる	.16*									.19**
	ICTを用いて情報収集ができる							.24**			
態度・志向性	ICTを用いて過程や成果を表現できる	.14*		.14*				.14*			
	多角的かつ論理的に分析できる	.14*						.15*		.18**	.16*
	自らを律して行動できる										
	他者と協調・協働して行動できる										
創造的思考力	良心と社会の規範にしたがって行動できる							.17*	.24**		
	社会の一員として、積極的に関与できる								.14*		
	キャリア形成に取り組むことができる	.17*		.17**		.14*		.15*	.13*		.18**
	総合的に活用して学習活動できる	.20**						.15*	.13*		.15*
専門性	問題の発見を楽しんだりできる	.27**			.15*			.17**	.26**	.13*	.19**
	問題について解決へ導くことができる	.22**						.16*	.18**	.13*	.14*
	所属する学科の専門的な知識	.24**						.14*			
教育目標	所属する学科の専門的な技術や技能	.19**							.21**		
	所属する学科が目指す態度・志向性や倫理観	.27**						.14*			.18**
意欲	所属する学科が目指す教育研究上の目的や教育目標					.14*					.16*
	学習に意欲的に取り組むことができる	.19**		.14*		.13*			.14*		
	教員・友人と意欲的に関わることができる	.28**									.19**

注1: 表中、数値はスピアマンの順位相関係数

注2: 有意な相関係数のみ掲載

* p<.05 ** p<.01

続いて、学士力達成度等の伸展と履修時のシラバス・履修モデル・履修系統図の活用に関する表5-2、学士力達成度等の伸展と履修時の学科の教育目標等の認知に関する表5-3、リエゾンゼミIの充実度と学士力等の伸展に関する表5-4に示す。これらより専門演習Iが特に学習意欲の伸展と社会に関する知識の習得に関連していることが示された(表5-4)。

表5-2 学士力等の伸展と履修時の参考の程度との関係

		シラバス	履修モデル	履修系統図
知識・理解	多文化・異文化に関する知識			
	人類の文化・社会と自然に関する知識			.16*
	社会や人生上の問題の解決に生かせる知識			
	自律・自立した学習を続けていく知識		.15*	.14*
汎用的技能	話をよく聞き伝えたいことを表現できる			
	尊重しながらコミュニケーションをとることができる			
	レポートを作成することができる		.13*	.22**
	表やグラフを用いることができる			.19**
	ICTを用いて情報収集ができる			
	ICTを用いて過程や成果を表現できる			.16*
態度・志向性	多角的かつ論理的に分析できる			.17*
	自らを律して行動できる			
	他者と協調・協働して行動できる		.17*	.19**
	良心と社会の規範にしたがって行動できる		.14*	
	社会の一員として、積極的に関与できる		.16*	.14*
創造的思考力	キャリア形成に取り組むことができる			
	総合的に活用して学習活動できる			.14*
	問題の発見を楽しんだりできる			
専門性	問題について解決へ導くことができる			.16*
	所属する学科の専門的な知識			
	所属する学科の専門的な技術や技能			
教育目標	所属する学科が目指す態度・志向性や倫理観			
	所属する学科が目指す教育研究上の目的や教育目標		.15*	.25**
意欲	学習に意欲的に取り組むことができる			
	教員・友人と意欲的に関わることができる			.14*

注1: 表中、数値はスピアマンの順位相関係数 * p<.05 ** p<.01

表5-3 学士力等の伸展と教育目標他の認知の関係

		学科の目的・教育目標	ディプロマ・ポリシー
知識・理解	多文化・異文化に関する知識	.20**	.15*
	人類の文化・社会と自然に関する知識	.23**	.15*
	社会や人生上の問題の解決に生かせる知識		
	自律・自立した学習を続けていく知識	.13*	
汎用的技能	話をよく聞き伝えたいことを表現できる		
	尊重しながらコミュニケーションをとることができる		
	レポートを作成することができる		
	表やグラフを用いることができる	.18**	.17*
	ICTを用いて情報収集ができる		
	ICTを用いて過程や成果を表現できる		
態度・志向性	多角的かつ論理的に分析できる	.13*	.18**
	自らを律して行動できる		
	他者と協調・協働して行動できる		
	良心と社会の規範にしたがって行動できる	.16*	
	社会の一員として、積極的に関与できる	.20**	.13*
創造的思考力	キャリア形成に取り組むことができる		
	総合的に活用して学習活動できる		
	問題の発見を楽しんだりできる		
専門性	問題について解決へ導くことができる		
	所属する学科の専門的な知識		
	所属する学科の専門的な技術や技能		
教育目標	所属する学科が目指す態度・志向性や倫理観		
	所属する学科が目指す教育研究上の目的や教育目標	.34**	.23**
意欲	学習に意欲的に取り組むことができる	.18**	.14*
	教員・友人と意欲的に関わることができる		

注1: 表中、数値はスピアマンの順位相関係数 * p<.05 ** p<.01
注2: 有意な相関係数のみ掲載

表5-4 学士力等の伸展と専門演習 I の充実度との関係

		専門演習 I
知識・理解	多文化・異文化に関する知識	.19**
	人類の文化・社会と自然に関する知識	.20**
	社会や人生上の問題の解決に生かせる知識	.22**
	自律・自立した学習を続けていく知識	.18**
汎用的技能	話をよく聞き伝えたいことを表現できる	.13*
	尊重しながらコミュニケーションをとることができる	.15*
	レポートを作成することができる	.15*
	表やグラフを用いることができる	.17**
	ICTを用いて情報収集ができる	
	ICTを用いて過程や成果を表現できる	
態度・志向性	多角的かつ論理的に分析できる	.18**
	自らを律して行動できる	
	他者と協調・協働して行動できる	.16*
	良心と社会の規範にしたがって行動できる	
	社会の一員として、積極的に関与できる	
創造的思考力	キャリア形成に取り組むことができる	.19**
	総合的に活用して学習活動できる	
	問題の発見を楽しんだりできる	
専門性	問題について解決へ導くことができる	
	所属する学科の専門的な知識	.15*
	所属する学科の専門的な技術や技能	.14*
教育目標	所属する学科が目指す態度・志向性や倫理観	
	所属する学科が目指す教育研究上の目的や教育目標	.19**
意欲	学習に意欲的に取り組むことができる	.24**
	教員・友人と意欲的に関わることができる	.22**

注1: 表中、数値はスピアマンの順位相関係数 p<.05 ** p<.01
注2: 有意な相関係数のみ掲載

8. 活動時間と学士力達成度等の伸展の関連

学士力達成度等の伸展と統計的に有意に関連が示された諸活動は表6の通りであった。特に「予復習」に費やす時間の多さが学士力等の伸展と関連していることが示された。

表6 学士力等の伸展と活動時間の関係

		を習授 すや業 る復の 習予	席授 す業 るに 出	す員以授 ると外業 面に時 談教間	く書書る読 しを・(書 除専教を 門科す	む新聞 を 読	をニネ 調ユン べリト るスで	動テポ をイラン する活	トア をル する イ
知識・理 解	多文化・異文化に関する知識				.18**	.15*			
	人類の文化・社会と自然に関する知識				.21**	.20**			
	社会や人生上の問題の解決に生かせる知識		.15*	.15*		.19**		.18**	
	自律・自立した学習を続けていく知識	.26**						.20**	
汎用的 技能	話をよく聞き伝えたいことを表現できる			.14*	.13*			.14*	
	尊重しながらコミュニケーションをとることができる	.14*						.18**	
	レポートを作成することができる	.21**		.15*		.12**			
	表やグラフを用いることができる	.17**				.25**	.16*		
	ICTを用いて情報収集ができる						.17*		
	ICTを用いて過程や成果を表現できる	.16*	.14*	.15*				.22**	
	多角的かつ論理的に分析できる	.14*			.17*		.14*		
態度・志 向性	自らを律して行動できる	.20**	.15*						
	他者と協調・協働して行動できる	.25**					.14*		
	良心と社会の規範にしたがって行動できる	.22**	.16*						
	社会の一員として、積極的に関与できる	.24**					.14*	.19**	
	キャリア形成に取り組むことができる	.13*	.14*					.17**	
創造的 思考力	総合的に活用して学習活動できる	.22**				.18**		.13*	
	問題の発見を楽しんだりできる	.21**	.17*	.17*	.15*	.18**	.18**	.18**	
	問題について解決へ導くことができる	.19**		.16*		.23**	.18**		
専門性	所属する学科の専門的な知識	.24**	.24**						
	所属する学科の専門的な技術や技能	.23**	.22**						
	所属する学科が目指す態度・志向性や倫理観		.16*						
教育目標	所属する学科が目指す教育研究上の目的や教育目標	.24**		.19**					
意欲	学習に意欲的に取り組むことができる	.19**	.16*	.13*					
	教員・友人と意欲的に関わることができる			.15*					

注1: 表中、数値はスピアマンの順位相関係数

注2: 有意な相関係数のみ掲載

* p<.05 ** p<.01

【資料1 学士力達成度・専門性の向上・教育目標の達成・意欲の伸びの項目】

(1) 知識・理解

- 1) 3年次進級時に比べ、さまざまな文化や自分とは異なる文化の立場の人の考えや気持ち、行動をとらえるようになり、多文化・異文化に関する知識が理解できた
- 2) 3年次進級時に比べ、歴史的文化的な事象や社会の事象、自然の事象について、その意味とその事象が起きた理由と自分と社会・生活との関連をとらえるようになり、人類の文化・社会と自然に関する知識の理解ができた
- 3) 3年次進級時に比べ、将来に出会う社会の問題や人生上の問題の解決に生かせる知識を獲得した
- 4) 3年次進級時に比べ、自律・自立した学習（自ら進んで、到達目標と学習計画を立て、実践し、自己および他者による点検や評価を行い、改善と見直しをするという取り組み）をこれから続けていくための知識や情熱を獲得した

(2) 汎用的技能

- 5) 3年次進級時に比べ、他人の話をよく聞き自分の伝えたいことをわかりやすく表現できるようになった
- 6) 3年次進級時に比べ、自分とは異なる意見を持つ人と互いを尊重しながらコミュニケーションをとることができるようになった
- 7) 3年次進級時に比べ、証拠に基づいてわかりやすく説得力のあるレポートを作成することができるようになった
- 8) 3年次進級時に比べ、表やグラフを用いて分析し、理解し、表現することができるようになった
- 9) 3年次進級時に比べ、インターネットなどの情報通信技術（ICT）を用いて問題解決のための情報収集ができるようになった
- 10) 3年次進級時に比べ、プレゼンテーションソフトなどの情報通信技術（ICT）を用いて問題解決の過程や成果を表現できるようになった
- 11) 3年次進級時に比べ、ものごとを多角的かつ論理的に分析できるようになった

(3) 態度・志向性

- 12) 3年次進級時に比べ、時間の管理や健康管理、感情や欲求の適切なコントロール、状況に応じた適切な対処行動など、自らを律して行動できるようになった
- 13) 3年次進級時に比べ、他者と協調・協働して、目標の実現のために、問題を共有し、方向性を示し、行動できるようになった
- 14) 3年次進級時に比べ、自らの良心と社会の規範やルールにしたがって行動できるようになった
- 15) 3年次進級時に比べ、社会の一員としての意識を持ち、人びとの幸せや地域・社会の発展のために積極的に関与できるようになった
- 16) 3年次進級時に比べ、自分をよく理解し、将来の展望を描き、キャリア形成に取り組むことができるようになった

(4) 統合的な学習経験と創造的思考力

- 17) 3年次進級時に比べ、実際場面で出会う課題について、これまで獲得したさまざまな知識と理解、汎用的技能、態度・志向性を総合的に活用して学習活動できるようになった
- 18) 3年次進級時に比べ、社会を広く見渡し、疑問に思ったり問題の発見を楽しんだりできるようになった
- 19) 3年次進級時に比べ、発見した問題について、情報を集め、討議や調査などを行い、ねばり強く分析・整理して解決へ導くことができるようになった

(5) 専門性

- 20) 3年次進級時に比べ、所属する学科の専門的な知識が身に付いた
- 21) 3年次進級時に比べ、所属する学科の専門的な技術や技能が身に付いた
- 22) 3年次進級時に比べ、所属する学科が目指す態度・志向性や倫理観が身に付いた

(6) 教育目標

- 23) 3年次進級時に比べ、所属する学科が目指す教育研究上の目的や教育目標に近づいた

(7)意欲

- 24) 3年次進級時に比べ、大学での学習に意欲的に取り組むことができるようになった
- 25) 3年次進級時に比べ、大学で教員・友人と意欲的に関わるようになることができた